

全苗連だより

Vol. 95 (3月号)

令和4年3月30日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074

令和3年度林業用種苗需給連絡協議会の概要

- ・苗木需要は令和4年春までは約6千万本と低迷が続くも、令和5年に向けて上昇の兆し
- ・コロナウイルス感染症対策のため、地区別協議会は大半が書面による開催実施

令和3年度の地区別林業用種苗需給連絡協議会は、コロナウイルス感染症対策の観点から昨年度に続き書面による開催が主となりました。一堂に会しての開催は無く、近畿地区でリモート会議が開催された他は書面による開催となりました。

会議では、種子・穂木や山行苗木の移出・移入の可否並びに広範囲な需給調整のあり方、コンテナ苗生産の取組み状況、特定母樹・花粉症対策品種の生産見込み、優良苗木の安定供給に向けた生産体制支援対策及び担い手対策等についての国・都道府県への要望事項等を議題に情報交換や意見交換が行われました。

需給の動向について、第1表に地区別、第2表に樹種別の需給見通しを掲載しました。

第1表 地区別の山行苗木の需給見通し(令和4年3月28日現在)

(単位：千本)

地区	需給見通し (R3秋～R4春)			需給見通し (R4秋～R5春)		
	生産量	需要量	過不足	生産量	需要量	過不足
北海道	23,393	19,005	4,388	19,994	20,927	△ 933
東北	9,802	8,718	1,084	10,575	9,175	1,399
関東	10,758	6,048	4,709	9,130	7,472	1,658
中部	3,216	2,953	263	3,172	2,277	895
近畿中国	6,820	5,615	1,200	7,562	6,264	1,200
四国	2,402	2,438	△ 36	2,502	2,530	△ 28
九州	16,927	15,186	1,741	17,316	14,865	2,451
計	73,317	59,964	13,347	70,249	63,511	6,641

第2表 樹種別の山行苗木の需給見通し(令和4年3月28日現在)

(単位:千本)

樹種		需給見通し(R3秋~R4春)			需給見通し(R4秋~R5春)		
		生産量	需要量	過不足	生産量	需要量	過不足
スギ	総数	29,932	25,977	3,956	30,319	26,074	4,245
	(うちコンテナ苗)	17,395	13,873	3,522	17,987	13,834	4,153
	うち花粉対策	13,100	11,152	1,949	13,450	10,086	3,364
	(うちコンテナ苗)	7,248	6,426	823	7,551	5,392	2,158
ヒノキ	総数	8,873	6,831	2,041	9,005	7,239	1,712
	(うちコンテナ苗)	4,097	3,113	982	4,127	3,436	638
カラマツ	総数	18,837	16,777	2,060	17,478	17,019	420
	(うちコンテナ苗)	4,786	4,310	476	4,636	4,829	△ 232
クロマツ	総数	1,438	573	864	1,889	2,291	△ 402
	(うちコンテナ苗)	1,088	376	712	807	453	353
小計	総数	59,080	50,158	8,920	58,691	52,624	5,975
	(うちコンテナ苗)	27,365	21,671	5,692	27,557	22,552	4,912
その他	総数	14,236	9,806	4,427	11,558	10,887	667
	(うちコンテナ苗)	1611	1,607	△ 1	1,419	2,006	△ 590
計	総数	73,317	59,964	13,347	70,249	63,511	6,641
	(うちコンテナ苗)	28,976	23,279	5,692	28,976	24,558	4,322

なお、都道府県ごとの数値は、全苗連ホームページの会員向けページに掲載してありますのでそちらをご覧ください。

昨年は、令和3年7月・8月の豪雨をはじめとする自然災害により、全国各地で甚大な被害が生じました。苗木生産者には直接の大きな被害は無かったところですが、日照不足等による生育不良への影響があったところがあります。また、北海道においては、大規模な干害による得苗率の低下等が発生したところがあります。

気象害があったものの本州以南では、生産者の持つ高い技術力等でこれを乗り切ったところですが、北海道における干害被害は稚苗にまでダメージを与えたことから、令和4年度、5年度の生産量が大きくダウンする見込みとなっています。

樹種毎に見てみます。今年の秋から来春にかけての地区別の概況としては、スギについては四国の需給が逼迫しています。中部は総量では余裕があるものの花粉対策スギが不足しています。

ヒノキは各地区とも大量の在庫を抱えています。

カラマツは全国的には過不足ないものの、地区別に見ると、北海道、東北、近畿中国が不足する見込みです。

クロマツについては、東北、近畿中国に余裕があり、関東、中部が不足気味で、特に関東は大幅に不足する見込みです。

現段階においては、令和5年度までの苗木需給について、供給量が需要量を大きく上回ると想定されています。しかしながら、最近の森林・林業に係る政策等を考慮するとそうはならないのではと懸念されます。需要量ももう少し伸びるのではないかと考えられます。

ご承知のように、国内ではコロナ禍にある中にも拘わらず、ウッドショックという言葉に代表される原木不足という状況が発生し、主伐が急増したものと考えられています。主伐跡地の再造林の実施が確実になされるか注目する必要があります。

また、昨年6月に新たな「森林・林業基本計画」が策定され、今後の森林・林業施策の指針が示されたところで、本計画は、①森林資源の適正な管理・利用、②「新しい林業」に向けた取組の展開、③木材産業の国際競争力・地場競争力の強化、④都市等における「第2の森林」づくり、⑤新たな山村価値の創造という5つの柱を通じて、森林・林業・木材産業の持続性を向上させながら成長発展させることで、社会経済生活の向上と2050年カーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」の実現を目指すこととしています。

具体的には、優良種苗の安定的な供給、造林適地の選定、造林の省力化・低コスト化はもとより、「森林・林業・木材産業者においては、自らの短期的な利益のみを追求するのではなく、国土と自然環境の根幹である森林の適切な管理、森林資源の持続的な利用を確保すべく、効率的なサプライチェーンを構築して相互利益を拡大しつつ、再造林につなげるとの視点を共有し努力することとしています。

更には、森林・林業基本計画の策定に先行し、昨年3月には「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法」の一部を改正し、同法に基づく間伐や優良種苗の増殖等の支援措置の期限を延長し、エリートツリー等を用いて再造林を促進する措置が新設されました。造林適地の選定の観点からは、これまでの特定母樹の増殖に関する規定に加え、新たに、エリートツリー等を積極的に用いた再造林を進める特定植栽促進区域の設定などの仕組みが盛り込まれました。また、これに併せて、林業種苗の表示の明確化や種苗の需給の広域化、予約生産の拡大等をさらに進めることとしているところです。

以上のように、伐採跡地の再造林面積の増加が見られることに加えて、森林資源の持続的な利用と保続培養の観点からも、再造林を確実に行う必要性が出てきました。

各苗組におかれましては都道府県、森林管理局署、森林総合研究所森林整備センター、都道府県森連等との連携を密にして適切な対応をとるようお願いいたします。

全苗連・苗組の行事予定

- 3月18日 林退共運営委員会第46回(千代田区大手町カンファレンスセンター)
- 3月18日 林業薬剤協会第3回理事会(学会館)
- 4月18日 全苗連生産者の集い運営委員会(宮崎県木材会館)
- 4月19日 全苗連会長・副会長会議(宮崎市)
- 4月22日 全国山林苗畑品評会第3次審査(全苗連事務室)
- 4月下旬(調整中) 全苗連監査会(全苗連事務室)
- 5月9日 一般社団法人林業薬剤協会理事会(学会館)
- 5月13日 全苗連理事会(ホテルメトロポリタンエドモント3階会議室)
- 5月27日 全苗連総会(ホテルメトロポリタンエドモント3階会議室)
- 5月31日 一般社団法人林業薬剤協会総会(学会館)
- 9月29日～30日 第6回全苗連生産者の集い(宮崎県「宮崎市民文化ホール」)